

## アカガエルの卵を探そう！

山岸文子（千葉市）

日 時：2014年2月16日（日）10：30～12：00 天候：晴れ

参加者：大人8名

担当指導員：芳我めぐみ・山岸文子

2月8日に続いて11日・14日と近年稀に見る大雪となった。大草の積雪被害も甚大で大きな倒木こそ必要最低限度に片付けられているものの、安全に観察会を行えるかが心配な状況。この寒さでは誰も来そうにない。中止か？と思い始めた頃、熱心な参加者が集まる。いつもと違う大草の様子を説明、滅多に見られない光景を確かめに出発。

竹林の変わりようには目を奪われる。歩くにつれ、ありとあらゆる樹木が、これでもか、これでもかと裂け折れ曲がり、切断面は鋭く尖っている。好奇心旺盛な子どもの参加が無くて正直ホッとした。夏の間ヨシ原となる放棄田も一面真っ白な雪、ノウサギの足跡を観察する。

「居てくれるのは嬉しいけれど、ウサギもさぞ大変だろうな。」



アカガエルの産卵池に行く。雪が溶け卵塊が見える。アカガエルは暖かい雨の日に産卵する。1月末から2月始めにかけて何回か春の陽気の日が訪れた。彼等がその機会を逃す筈はない。2月6日気温2℃厚さ7～8mm」の氷が張る中、卵塊数の調査を行った。彼等はまるで結氷を予測していたかのように、いつもより深い場所を選び産卵していた。氷の下でもヨコエビが元気に泳ぎ回り、カエルの卵塊も全くダメージを受けずにいるのに感心した。参加者からも、動物の適応力の凄さに驚いたという声があがった。



平成22(2010)年度81個、平成23(2011)年度17個、平成24(2012)年度83個、今年、平成25(2014)年度2月6日の時点で172個、その後の調査結果、今年の産卵総数は228個になった。確実にアカガエルの生息数は増えている。今後もカエルの棲める生態系を維持しなくてはならない。

参加者から締めくくりの一言。「自然の力は凄い。敵わない。でも自然を守るのも人間の役目。」